

『見直す機会 ～ 目が覚める ～』

2023年1月21日午前中は、大田区立調布大塚小学校の校長：玉野麻衣先生の依頼で、『小学6年生の授業』(10:15-11:00)と『教員・保護者対象講演会』(11:00-11:45)に赴いた。玉野麻衣先生とは、文京区教育委員センター時代から『がん教育』で交流がある(画像)。生徒の真摯な質問があり、大いに感動した。『教員・保護者対象講演会』も大変有意義な時で、小学校に『First Contact Team』が開設されれば、生徒、父兄、教職員にとって歴史的快挙となろう！早速、【真剣に聞いている子供の姿に感心しました。樋野先生のことばを いつまでも心に留めておいてほしいと思います。】との心温まるメールを頂いた。

その後、『がんカフェ立川駅前特別講演会』(13:30-15:30)(立川駅前キリスト教会に於いて)に向かった。個人面談もあり大変貴重な時であった。『エリヤ会』のメンバーであった大野剛氏も出席されていた。筆者は『エリヤ会』の発足(2002年)に参画し、『エリヤのように』(エリヤ会出版委員会；イーグレイプ発行)が、2009年に出版された(画像)。2009年の出版記念講演会が、鮮明に思い出された。会場に【日めくり；人生を変える言葉の処方箋】(2019年 いのちのことば社発行)が置かれていた(画像)。そして、7章【『人生にはもしかすると このときのため と思えることがある』：病気になると、人の言葉や態度が気になり、いろいろなことに敏感になります。だからこそ、健康な時には 気づかなかったことに 気づくことがあります。夫婦関係、親子関係、友人関係など、見直すよい機会にもなります。人の命には限りがあります。今まで避けていたこと、逃げていたことと 向き合うことを迫られます。もしそのことにより、今まで うまくいかなかった人間関係の和解へと導かれるのなら、苦しみを知ったことは、無駄ではなかったと 思えるのではないのでしょうか。】が配布され、大いに感服した。早速、【今日は、樋野先生との面談の機会を頂き、ありがとうございました。最初に、命は、自分のものではない、与えられたものなのだと言われました。私の抱えている問題の核心をズバリ指摘され、目が覚める思いになりました。今後は、出来ることをお返ししていく生き方と言うお話で、自分のすべきことが見えてきました。—— 思いがけず、貴重な体験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。】との励ましのメールを頂いた。2023年1月21日は【人生の貴重な連チャン症候群の旅】となった。

平成29年度 文京区立小学校教員対象講習会

小学校段階で必要ながん教育の在り方を考える

日時 平成29年8月28日(月) 14時15分～16時15分
会場 順天堂大学第2教育棟5階501 (文京区本郷2-1-1)

講師 順天堂大学大学院医学研究科分子病理病態学
順天堂大学医学部 病理・腫瘍学

樋野 興夫 教授

- 内容
- 1 講演「小学校段階で必要ながん教育の在り方を考える」
 - 2 グループディスカッション
 - 3 オープンディスカッション



樋野 興夫教授 プロフィール

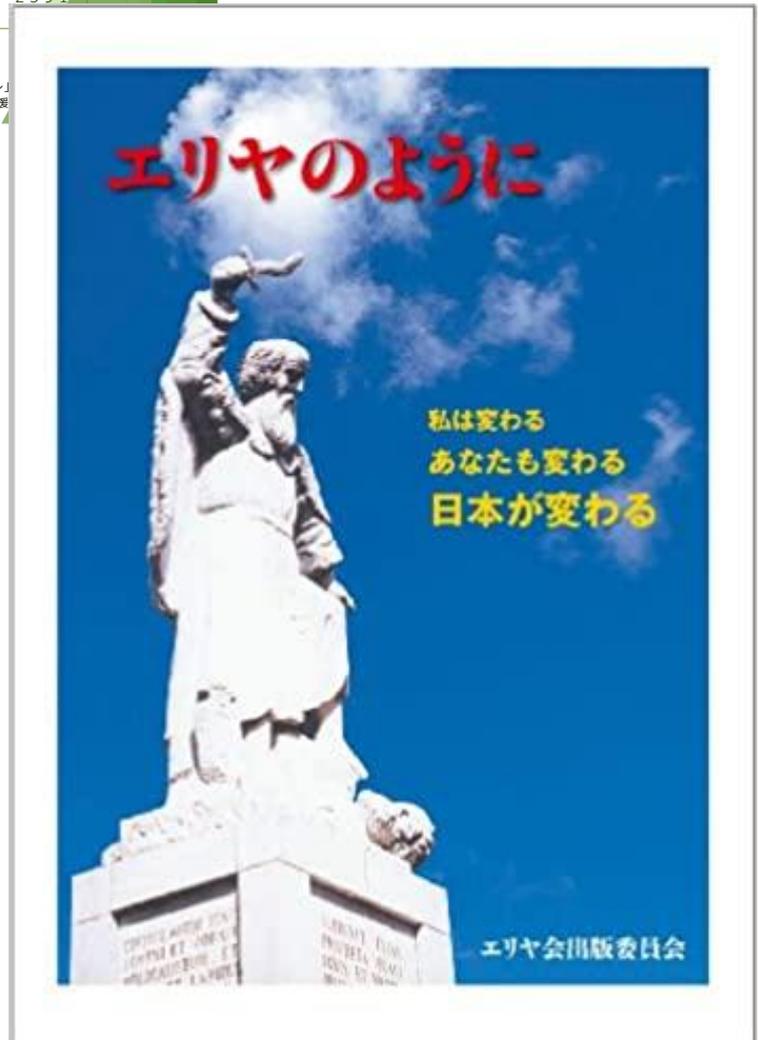
1954年鳥根県生まれ。米国アインシュタイン医科大学肝臓センター、米国フォックスチェース癌センター、癌研究会癌研究所実験病理部長等を経て、現在、順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授、医学博士。2008年「がん哲学外来」を開設。



(問合せ先)
文京区教育センター
03-5800-2591

主催；文京区教育委員会教育センター

後援；平成24年度 文部科学省採択事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
理科学省 新学術領域研究『学術研究支援基盤形成』『コホート・生体試料支援



日めくり

人生を変える
言葉の処方箋

Shino Okino
樋野興夫



Forest Books